

**【質問】フルティフォームの長期投与試験における有効性は？**

**【回答】**

成人気管支喘息患者 244 例を対象に、観察期間中に使用した吸入ステロイド剤の用量に基づき、フルティフォーム 50 エアゾール 1 回 2 吸入<sup>※1</sup>、フルティフォーム 125 エアゾール 1 回 2 吸入<sup>※2</sup> 又は 4 吸入<sup>※3</sup> の 3 用量いずれかで投与を開始し、症状に応じて増量減量を可能とし、1 日 2 回 52 週間投与しました。

その結果、朝のピークフロー値は、フルティフォーム投与開始翌日から増加し、52 週間の投与期間を通して高値を維持しました。また、その他の呼吸機能及び喘息コントロールに関する評価項目においても 52 週間投与を通して改善が維持されました。

※1:フルチカゾンプロピオン酸エステル 100 $\mu$  g/ホルモテロールフマル酸塩水和物 10 $\mu$  g

※2:フルチカゾンプロピオン酸エステル 250 $\mu$  g/ホルモテロールフマル酸塩水和物 10 $\mu$  g

※3:フルチカゾンプロピオン酸エステル 500 $\mu$  g/ホルモテロールフマル酸塩水和物 20 $\mu$  g

出典：添付文書